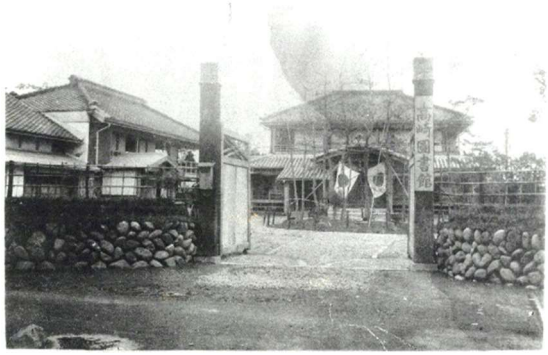
図書館今昔

～新館開館10周年によせて～

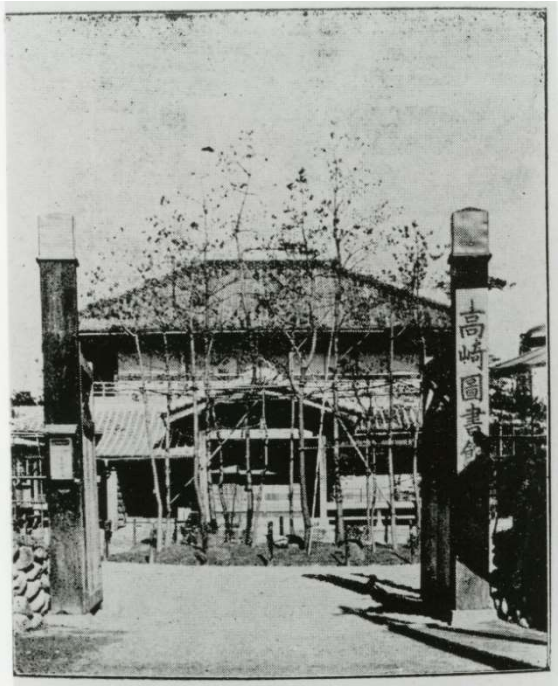


高崎市立中央図書館

東日本大震災で世の中が騒然としていた 2011（平成 23）年4月に、現在の中央図書館は開館しました。震災発生からオープンまでの3週間ほどの間、夜間に大きな余震が来る度に、自転車で十分ほどの自宅から建物の様子を見に来ていましたが、最新の免震構造で建設されたので、被害はなく無事引越しを終えて開館することができました。なお、この建物は大規模災害等を想定し、自家発電施設で 72 時間電力を確保できます。

あれから 10 年が経ちましたが、日頃はネオン眩しき中心市街地が、計画停電で漆黒の闇に包まれ、懐中電灯の細い灯りを頼りに家路を急いだことが思い出されます。

さて図書館今昔ですので、まずは 1910（明治 43）年、本町に設置された初代図書館から話を始めましょう。



初代の図書館「春靄館」

この建物は「春靄館（しゅんあいかん）」といい、高崎線開通の際、明治天皇の行在所（あんざいしょ）として建設されましたが、天皇は駅構内から直接帰京されたため、「幻の行在所」と言われました。

その後は集会所や米穀取引所などとして使われ、県立高崎女子高校の前身である群馬県高等女学校も、この建物を仮校舎として開学され、後に末広町に移転しました。

時代は下って4代目、末広町にあった図書館は、高崎女子高校が末広町から稲荷町に移転後、その旧校舎を改築したものなので、図書館と「高女」には歴史的な縁があったのですね。

初代の図書館は 1935（昭和 10）年まで使われていました。時代を反映して閲覧室も男女別でした。この図書館を記憶されている方がいらっしゃるとすれば、恐らく 90 歳以上の方ではないかと思います。

明治 43 年 開館記念式典の様子

初代図書館は約50年利用された後、1934（昭和9）年に解体され、部材の一部は高崎公園内に建てられた武徳殿の用材とされました。

2代目の図書館は、1935（昭和10）年に初代とほぼ同じ場所に建てられました。

この場所は、本町と成田町にまたがり、図書館や公会堂、後には中央公民館、婦人会館などが置かれ、文教地区として、様々な文化団体や社会活動の拠点となりました。

この図書館は、既存施設の再利用ではなく、当初から図書館を想定して設計、施工されたもので、利用者も初代図書館が年間4万5千人だったものが、開業後の1938（昭和13）年には18万人を超えるまで増加しました。

2代目の図書館（昭和10年）

しかし時代は、1936（昭和11）年の2・26事件、1937（昭和12）年には盧溝橋事件から日中戦争が勃発、そして、1941（昭和16）年の真珠湾攻撃で太平洋戦争に突入していきます。

戦況が悪化し本土空襲が危惧されると、中央官庁の地方疎開が始まります。高崎にも1944（昭和19）年に東京鉱山監督局が疎開、図書館はその庁舎に充てられたため、一時的に寄合町の高崎中央通り教会（現在の救世軍高崎小隊）

へ移転、更に終戦後の1946（昭和21）年には高崎公園内の武徳殿に再移転しました。

戦前・戦中・戦後の激動期に、市民への資料提供を続け、1948（昭和23）年に、やっと元の成田町の建物に戻ることが出来きました。

2代目図書館は、1965（昭和40）年に高松町に3代目図書館が建設されるまで、30年に亘り利用されました。

現在鞘町に復活した喫茶「あすなろ」は1957（昭和32）年に本町で開業しました。図書館利用者も読書や名曲に親しんだことでしょう。

武徳殿（高崎市勢要覧　昭和 14 年刊より）

2代目図書館の閲覧室

さて、3代目図書館は市役所、消防署、警察署といった行政機関が集積していた城址内に 1965（昭和40）年に建設されました。

この頃は末広町に高崎女子高校、台町には高崎商業高校がありました。また、現在の中央図書館の場所には専売公社が、子育てなんでもセンターのある場所には中央郵便局があるなど、公共施設の場所も随分と変わったのだなと改めて思います。現在の姉妹都市公園の場所には観覧席のあるテニスコートがありました。

中央図書館では 1959（昭和34）年以後の高崎の住宅地図を閲覧することが出来ます。1965（昭和40）年当時の中心市街地の地図を見ますと、割烹の宇喜代や岡源、藤五デパート、旅館信濃屋といった懐かしい名前が見られます。こうした古い住宅地図を見ていると幼い頃や青春時代の記憶が蘇ってきます。現在の地図と見比べてみると、世代間で会話も弾むと思います。

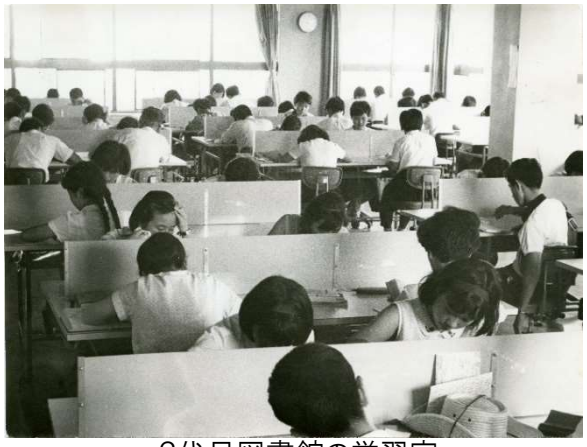
私が最初に高松町の3代目図書館を利用したのは小学校の高学年の頃で、友達数人とバスで訪れたと記憶しています。

2階が入口になっていて、現在と違い本の裏表紙にカードがあり、係りの人がそのカードに記入して本を貸し出してくれました。以後、よくこの図書館を利用しました。

名曲堂やサカ井楽器店でレコードを見て、天華堂や学陽書房で立ち読みをして（申し訳ありませんでした）、オリオン座、東宝、東映、ピカデリーなどで映画を見るというのが、当時の学生や若者の娯楽だったと思います。

さて、この図書館の前庭では市役所職員の草野球ならぬ草バレーボール大会も行われ、多くの珍プレーが大勢のギャラリーを沸かせました。おでこでレシーブしたボールがお堀の土塁の脇の池にポチャン、ということもありましたが今ではこの池と西側の大きな二本のヒマラヤスギの木だけが「もてなし広場」で往時の図書館や市役所を偲ぶことのできるものとなりました。

もてなし広場にあった3代目図書館


3代目図書館の学習室

さて、この時代までは貸し出しなども全て手処理でしたが、いよいよ次の4代目図書館になると情報化時代を迎えサービスの質も大きく変わることとなります。

3代目図書館は現在のもてなし広場に市役所、消防署、警察署とともにありましたが、行政規模の拡大に伴い市庁舎のスペースが不足し、警察署が台町の高崎商業高校跡に移転し、消防署も新たに近隣市町村とともに広域消防組合として八千代町に本部が建設され移転してゆきました。

そして図書館も高崎女子高校が稲荷町に移転した後、その校舎を改築し 1984（昭和 59）年7月に4代目図書館として末広町に移転しました。ちなみに高女の生徒は移転時にそれぞれが机を手に持って新校舎まで歩いたそうです。

移転した高女の敷地内には図書館だけでなく、文化会館、少年科学館、プラネタリウム、中央公民館などが作られ、総合文化センターとして新たな文化や社会教育活動の拠点となりました。

図書館も OA 化が進められ、利用券のバーコードにより資料の貸出や返却が行われるようになり、蔵書の検索などもコンピューターで行えるようになりました。

図書館というと、それまでは本だけのイメージでしたが、ビデオの普及や音楽のデジタル化などによる視聴覚資料の充実の機運が高まり、1990（平成 2）年から全国的にも早い段階で視聴覚資料の貸出を開始しました。その後の機器の進歩は著しく、現在、ビデオテープの再生機器の生産が終了するなど、視聴覚資料の在り方については過渡期を迎えています。

末広町にあった4代目図書館

図書の面では「田島文庫」や「小谷文庫」などが寄贈されたほか、1996（平成8）年度には貴重な郷土資料である「俳山亭文庫」を購入するなど、蔵書の幅を広げていきました。

また、前橋市や近隣市町村との相互利用が進められたのもこの図書館の時代でした。平成の大合併により旧町村の図書館も加わり、その連携やネットワークの構築も求められてきました。

しかし、古い校舎を改築利用していたので老朽化が進み、また、新たなメディアへの対応、時代の趨勢に追いつくための課題も多くなり、新図書館建設が急務となってきました。

そして5代目となる現在の図書館は、あの東日本大震災発生直後の 2011（平成 23）年4月にオープンを迎えることとなりました。

コラム

「高女引っ越しの日の思い出」　1982（昭和 57）年７月４日

群馬県立高崎女子高校が末広町の旧校舎から稲荷町の現校舎に移転したのは、1982（昭和 57）年７月４日の日曜日でした。高女生達は、この日のために引っ越し実行委員会を組織し、机と椅子を自らの体に晒しでくくりつけ、1.5 キロの道のりを歩いて運ぶという計画を立てました。

実行委員会メンバーは事前説明会で講堂の舞台に立ち、全生徒に晒しの結び方について実演をして見せました。自分たちで運ぶという方法はかなりユニークなアイデアでしたが、今にして思えばこれを無事に完遂させるために先生方も随分骨を折られたことだろうと拝察します。

当日は蒸し暑い陽気だったことが記憶に焼き付いています。また、運搬中にご近所の方々や保護者の皆さまに沿道から声援を送っていただいたことも覚えています。机と椅子を体に結び付けて運ぶ高女生の隊列は一大イベントであり、珍しい様子につい声をかけたくなってしまわれたのだと思います。

それでも、その声援のおかげで生徒たちは誇らしい気持ちにもなれました。

いつの間にか、あれから 40 年近くが経過し、末広町での高女の歴史は遠くなりつつありますが、あの夏の日の引っ越しは、高女の歴史の中でも大きな転換点であり、そこに立ち会えたことに不思議な縁を感じています。（中央公民館長　藍美香）

5代目となる図書館が保健所などとの複合施設として、自動出納書庫などの最新設備を備え2011（平成23）年4月にオープンしてから、早くも 10 年の歳月が流れました。

当時、高崎市は周辺町村との合併を経て人口も30万人を超えたことから、県が行っていた様々な事務や権限が移管される中核市を目指していました。

中核市になると、保健所の業務や環境行政における許認可権などを市が担うことになり、高松町の JT 跡地に新たな保健所の建設が計画されました。

一方、老朽化が著しくなった図書館は、当初は今の市庁舎の南側に建設する構想もありましたが、駐車場のキャパシティーなどの面から他の候補地を模索することになりました。

郊外の広い土地も候補に上がりましたが、図書館は子供からお年寄りまで幅広い年齢層の方が利用することや、1日2000人近くの人が利用するという集客面も重視され、交通の利便性が高く、市役所、音楽センター、シティギャラリー、ハローフォーラム、もてなし広場などの公共施設が集積する城址地区に、先行する保健所建設計画との整合性を図り、複合施設として整備することとなりました。

2009（平成21）年7月に本体工事が着工され、翌 2010（平成22）年11月からは新館移転のために図書館は長期休館となり、末広町の4代目図書館はその役目を終えたのです。

この旧館は新館がオープンした2年ほど後に解体され、文化会館や中央公民館の駐車場となっています。

新しい図書館は蔵書約60万冊、視聴覚資料約7万点のほか、編纂作業を終えた市史関連の資料などが搬入され、新たに IC タグを導入することで自動貸出機による貸出や予約資料の受け取りが可能となりました。

現在の中央図書館

また、自動出納書庫の導入により、旧館では職員が書庫までの遠い距離を走って取りに行っていた資料が、機械処理で取り出せるようになりました。

図書館におけるボランティア活動も「おはなしのへや」が整備され、「読み聞かせ」などがより充実しました。保健所で行われる乳幼児の検診時に「ブックスタート事業」も併せて行われるようになり、複合施設としての特徴も生かされています。

視聴覚関連でも定期的に「DVD 上映会」が開催され、多くの皆さんにお楽しみいただいております。

また、長い歴史を誇る読書会は、1979（昭和54）年の発足以来実に461回を重ね、著者やエピソード、作品の背景なども詳しく紹介され、参加者の読書感を活発に交換しています。

1910（明治43）年の開設以来、時代の変遷とともに図書館の形態やニーズも多様化してまいりましたが、図書館はその街の文化のバロメーターでもあり、「知のトポス」でもあると思います。

今後も利用者やボランティアの皆様とともに、より良い図書館となるよう職員一同努力してまいりますのでよろしくお願い申し上げまして、「図書館今昔」完結とさせていただきます。

令和３年

著・高崎市立中央図書館長　今井伸一

高崎市立図書館の沿革

明治42年　7月 7月15日	高崎市教育会評議会で図書館設立を議決 高崎市教育会、図書館設立の趣旨書を発表
明治43年　9月26日 11月　3日	高崎市教育会により本町地内の春靄館（しゅんあいかん）に私立高崎図書館を開設　蔵書数1，746冊 私立高崎図書館開館式
大正　2年	巡回文庫を開設
大正　6年	高崎市公会堂建設に伴い、図書館を西側隣接地へ移転
大正　8年　3月 4月　1日 8月　1日	高崎市教育会、高崎市へ図書館を寄贈 市立の図書館として発足 高崎図書館と称する　蔵書数8，079冊（うち洋書196冊）
昭和　5年　4月　1日	「高崎図書館々外帯出規程」が定められる
昭和10年11月26日	成田町１番地に洋風２階建、書庫鉄筋コンクリート造３階建の新館を建設、開館
昭和13年	この年、蔵書数26，541冊。年間利用者数180，620人。
昭和19年　1月　6日	東京鉱山監督局の疎開に伴い、寄合町救世軍跡に移転
昭和21年　3月11日	高崎公園内武徳殿に移転
昭和23年　3月　1日 5月　7日	高崎図書館内に、群馬軍政部の民間情報課（CIE）がCIE図書室を設置 成田町に復帰、開館
昭和24年12月　6日	CIE図書室に代わり、連合国軍最高司令官（SCAP）民間情報教育局（CIE）がSCAPCIE東京図書館高崎分館を設置
昭和25年　9月 10月　1日	児童図書室を開設 高崎市立図書館条例施行。高崎市立図書館へ名称を変更
昭和26年　5月　1日	巡回文庫新発足。後に名称を貸出文庫とする
昭和27年　4月28日	SCAPCIE東京図書館高崎分館、東京アメリカ文化センター高崎分館へ移行

昭和34年　8月	貸出文庫の配本車を新規購入
昭和39年　6月	自動車文庫による広域サービスを開始
昭和40年12月	高松町１番地に鉄筋コンクリート造（陸屋根）を6，000万円で改築（地下１階地上５階建、延床面積1，900㎡）
昭和41年　2月　1日	新館へ移転（２階から５階の一部で延床面積1，098㎡）
昭和45年　8月	新しい自動車文庫「はばたき号」によるサービス開始（ステーション49個所）
昭和47年　6月 10月	貸出文庫配本車を購入 第９回群馬県図書館大会を開催
昭和49年11月　1日	身体障害者福祉対策の一環としてエレベーターを設置
昭和50年　4月　1日	増築工事により、小･中学生室及び事務室各30㎡を拡張
昭和52年　3月30日	移動図書館車「はばたき号」を新車に交換
昭和55年　6月21日 7月17日	著者を囲む会（直木賞作家宮尾登美子とともに）を開催 吉井町立山種記念吉井図書館開館
昭和57年　4月　1日 4月　1日 5月19日	貸出文庫配本車を新車に交換 昭和59年度図書館移転を目標に計画作成 国際姉妹都市コーナーを設置
昭和58年　1月28日	群馬県図書館協会、移動図書館研究会開催
昭和59年　7月　7日 7月21日 11月　1日	新館オープン（高松町１番地から末広町25番地１に移転） 高崎市総合文化センターのオープニングセレモニー 著者を囲む会開催（群馬県図書館協会と共催） 高崎市立図書館電算システム稼働（日立ハイタックＬ－450）
昭和60年　3月27日 4月　1日 4月　1日 10月　1日	移動図書館車納車（全天候型、4，000冊積載） 移動図書館車運行開始 広域圏住民へのサービス開始 移動図書館を電算化
昭和61年　5月　1日 9月　1日	書庫内の資料電算化準備開始 貸出文庫電算化
昭和62年　6月	電算新システム稼働（M630－10）
昭和63年　6月10日 12月	新町立図書館開館 小谷文庫受け入れ
平成元年　7月14日	箕郷町立図書館開館
平成　2年10月　1日 10月　1日	視聴覚資料（ビデオテープ、CD）の貸出開始 コンピュータによる図書資料検索開始
平成　3年　4月　1日 11月26日 11月26日	視聴覚ライブラリー（16ミリフィルム）の貸出開始 電算新システム（LOOKS／L）稼働、貸出点数を図書資料５点、視聴覚資料２点とする 高崎経済大学図書館と相互検索開始

平成 4年 1月10日	倉賀野公民館に電算システム導入
平成 5年 1月	視聴覚コーナー独立、図書館用セキュリティシステムBDS導入
平成 6年 4月 1日	年末年始と蔵書整理期間を除き、原則的に通年開館を実施
4月 1日	視聴覚資料の貸出点数を３点とする
11月 4日	群馬町立図書館開館
平成 7年 7月 1日	レファレンスコーナー設置
7月	榛名町図書館、榛名町総合文化センター内に開館
8月 1日	移動図書館車「はばたき号」を新車に変更
10月 1日	移動図書館車「はばたき号」に雑誌積載
平成 8年 4月 1日	移動図書館車「はばたき号」にビデオ（主に幼児向け）積載
4月 1日	視聴覚資料の貸出点数を５点とする
平成 8年11月 1日	洋書コーナーの設置
平成10年 3月	平成８年度と９年度で「俳山亭文庫」を購入
8月	前橋市立図書館との交流事業開始
平成11年 4月 1日	視聴覚係設置
4月 1日	前橋市立図書館との相互利用事業開始
7月	リサイクル図書コーナーの設置
平成12年 4月 1日	高崎都市圏（11市町村）図書館（室）との相互利用事業開始
4月19日	CD－ロム貸出開始
平成13年12月 1日	図書館ホームページの開設
平成14年 1月 1日	学校、公民館図書室等からインターネットによる予約受付開始
4月26日	図書資料の貸出点数を10冊とする
5月 1日	高崎市立図書館友の会発足
7月 1日	高崎駅市民サービスセンター図書コーナー開設
7月15日	DVD貸出開始
平成18年 1月23日	合併に伴い、箕郷・群馬・新町図書館を設置。従来の高崎市立図書館を高崎市立中央図書館と改称
6月30日	新町図書館建設に向けて設計に着手
10月 1日	合併に伴い榛名図書館を設置し、電算システムを統合
平成19年 1月 5日	新町図書館建物解体に伴い、隣接する教育会館において仮開館
1月 5日	一般利用者からのインターネットによる予約受付開始
3月 1日	新町図書館の電算システムを統合
5月 1日	箕郷・群馬図書館の電算システムを統合
6月28日	新町図書館建設工事着工（平成20年３月25日完成）
平成20年 6月 6日	新町図書館開館（鉄骨造平屋建・延床面積1，012㎡）
平成21年 6月 1日	合併に伴い、山種記念吉井図書館を設置
7月	新図書館（中央図書館）建設　本体工事着工

平成22年11月　1日	新図書館（中央図書館）移転作業に伴う窓口業務の縮小（予約資料受け取りと返却のみ）
12月末日	自動車による移動図書館サービス事業の廃止
平成23年　1月	移動図書館廃止に伴う代替事業として、４公民館を拠点とした予約資料の受け取り及び返却を開始
1月31日	新図書館（中央図書館）竣工
3月　1日	ICタグ導入に伴い新電算システム稼働（LOOKS21／P）
3月　1日	山種記念吉井図書館の電算システムを統合
4月　1日	中央図書館開館（末広町25番地１から高松町５番地28に移転）。高崎市役所総務部庶務課から、市史担当が移管される
4月22日	「子どもの読書活動優秀実践図書館」として中央図書館が文部科学大臣表彰を受賞
6月25日	榛名図書館建設工事着工
平成24年　6月29日	榛名図書館竣工
7月	中央図書館で、高崎市こども家庭課ブックスタート事業開始
平成24年　9月　1日	榛名図書館開館（上里見町１０７２番地１から下室田町９００番地４に移転）
平成25年　4月23日	旧高崎市立図書館（末広町25番地１）解体工事着工
9月30日	旧高崎市立図書館解体工事完了
平成26年　1月　4日	インターネットによる書架予約受付開始
3月	高崎市子ども読書活動推進計画策定
10月　9日・10日	全国公共図書館研究集会（サービス部門　総合・経営部門）開催（主催：日本図書館協会公共図書館部会・県教育委員会・県図書館協会・関東地区公共図書館協議会）
平成28年　2月　3日	レファレンス協同データベース事業における成果と寄与に対する「御礼状」（国立国会図書館）を中央図書館が受領（県内初） ※以下令和２年度まで毎年受領
10月　1日	山種記念吉井図書館の改修工事に伴い、吉井支所南庁舎において仮開館
10月　1日	山種記念吉井図書館改修工事着工（平成29年３月17日竣工）
平成29年　4月22日	山種記念吉井図書館再開館
平成30年　4月23日	「子どもの読書活動優秀実践図書館」として群馬図書館が文部科学大臣表彰を受賞
平成31年　3月	高崎市子ども読書活動推進計画（第二次）策定
4月　1日	高崎市立図書館となって１００周年
令和　3年　4月　1日	高崎市立中央図書館新館開館１０周年

編集後記

ここに「図書館今昔」をお届けいたします。

本小冊子は、『としょかん日和』創刊号（2018（平成 30）年 10 月 15 日発行）から第 5 号（2020（令和 2）年 7 月 29 日発行）まで 5 回にわたり連載された「図書館今昔」を再編集し、高崎市立中央図書館の沿革を掲載したものです。

本小冊子をご覧いただくことで、高崎市の発展とともに移転を繰り返しながら、時代時代の市民に寄り添ってきた高崎市立図書館の変遷をご理解いただくことができると思います。

1910（明治 43）年の開館以来、本当に多くの方々にご利用いただいてきたことに感謝申し上げます。中央・箕郷・群馬・新町・榛名・山種記念吉井の 6 館一致協力して、今まで以上に市民の皆様に寄り添い役立つ図書館を目標とし、職員一同、職務に専念してまいりますので、どうぞ、よろしくお願いいたします。

図書館今昔～新館開館 10 周年によせて～

2021（令和 3）年 4 月 1 日　発行

発行　高崎市立中央図書館
高崎市高松町 5 番地 28
電話（027）322-7919
FAX（027）324-3423
E-mail：toshokan@city.takasaki.gunma.jp